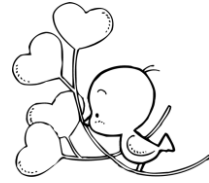




# 園だより

令和2年5月1日  
佛教大学附属幼稚園



「仏教保育5月のねらい」

持戒和合

「互いを思いやる」

園長 佐藤和順

本来ならば、青空のもと泳ぐこいのぼりに負けないくらいの元気いっぱいの声が園庭に響いているはずでした。前年度から引き続き、入園・進級からすぐに新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休園の措置をとらなければならなくなりました。事態に戸惑うばかりですが、子どもの健康・安全を最優先し、状況は必ず好転することを信じ、今とるべき行動をとっていきたいと思います。

今月の保育の目標は「持戒和合(じかいわごう) 決まりを守り集団生活を楽もう」です。「持戒」とはきまりを守る・我慢をするということです。「和合」とは和やかに力を合わせ協力するということです。約束を守ることは社会生活の第一歩であり、それをもとにして集団の秩序が保たれます。園生活を楽しいものにするためには持戒和合は欠かすことができません。

きまりを守ることによって、集団生活は可能になります。しかし単にきまりを守るだけでは十分ではありません。きまりを守り、相手を思いやる。このことが人間関係の潤滑油となり、和やかな関係を作りだします。園では集団生活の中で、順番を守ることや遊具の正しい使い方を学んでいきます。時には遊びの中で遊具の取り合いからけんかになることもあります。そのような場面に出会った時は、お互いの話を聞き順番に使うことや状況を見て友だちに譲ることも提案していきます。その時には「〇〇を我慢していやだった」ではなく「〇〇を譲ってあげられた。優しい気持ちになった」と思えるように保育することを心がけています。そして友だちの思いやりに対しては「ありがとう」を言うことも忘れないように。

最初は「きまりを守りなさい」と言うだけでも良いかもしれませんが。しかし成長に応じて、なぜそのきまりを守らなければならないのか、相手はどのように感じるのかを理解できるようにならなければ身についたとはいえません。自分で考え判断できることが大切なのです。言葉できまりの重要性を伝えることは簡単ですが、そこに体験・経験が積まれることで、よりきまりを守ることの大切さや友達と仲良く遊べる術を学んでいくのです。そのためには、子どもにとって一番身近な保護者や保育者である私たちが、社会のきまりを守る姿勢、他者を思いやる態度を示していくことが大切です。

新型コロナウイルス禍は、私たち大人の「持戒和合」が試されているのかもしれませんが。教職員一同、今すべきことは何かをしっかりと考え園児との再会に備えていきたいと思います。